

今回は 社会連携セミナー さくら塾 の報告です。

## ◇ LGBTQパートナーシップ制度について学びました！

テーマ： LGBTQパートナーシップ制度とは何か

講師： 市川武史さん

(オンザグラウンドプロジェクト代表)

日時： 12月23日(木) 14:30~15:50

場所： 桜ヶ丘会館3F

講師紹介： 「私たちがそこにいるのが当たり前。こんな社会をつくりたい」というビジョンを掲げ、LGBTQをテーマにした様々な活動を展開中。企業研修、講演、コンサルティング活動、同性カップルの結婚や、カップル・パートナー証明書発行を行っている。関市・関高校の主催するダイバーシティSEKIシンポジウムでも、パネラーやコーディネーターとして活躍。



## ◇ 当日のようす ～生徒の感想より～

◆今日は講演ありがとうございました。LGBTQについて結構知っているつもりでしたが、知らないこともあってとても面白かったです。自分はLGBTQ当事者なので聞いていて共感出来ることもいくつかありました。当事者とシスジェンダーは違う存在なのではなく、グラデーションが違うだけという考え方がもっと広まれば良いなと思います。また、自分からも周りに発信していけたらと思います。

◆私は、FRH活動でジェンダー平等をテーマとし、今までに政府や企業の取り組み、LGBTQについて調べてきました。調べてみると様々な用語があることや、当事者であることをカミングアウトできない人がいること、同性婚が認められていないことなど多くのことを知ることができました。しかし、今日の講演で、当事者の方から見た性的少数者に対する考え方を知ることができとても勉強になりました。一括りにされがちだけど、LGBは性的指向のことであり、Tは性自認のことであるということは今日初めて知りました。また、性的少数者は自殺を考えることもあると知り、カミングアウトしやすい環境を作ることがいかに大切か分かりました。知らないうちに差別的な言葉を使って誰かを傷つけていたのではないかと思い不安になりました。この機会に自分の発言に責任を持てるように考えて発言していきたいようにしたいです。

私は今日、性的指向は100人いれば100人違うという言葉が印象に残りました。今まで、なぜ性的少数者は特別な扱いをされているのかと疑問に思うことがありました。しかし、考え方が人それぞれ違うように、性的指向もそれぞれ違うのだとわかり私自身も、周囲の人も一人一人が特別で当事者なのだと感じる事が出来ました。

貴重な話を聞くことができ、良かったです。ありがとうございました。

◆好きだから一緒にいたい、一緒にいることを世間に祝福されたい。たったそれだけのことがこんなにも難しいのだと知りました。

昔読んだ本で、「性自認、性的指向が日によって揺れ動く人もいる」という一節がありました。性とはそれぐらいあやふやで、本人にも制御できないものです。その上外から見えないため、見落とされやすく理解されにくいことでもあります。しかし、それは無視されていい

理由にはなりません。全ての人は、等しく幸せになる権利があるはずです。それなのに、当たり前前の幸せのために戦わなくてはいけない人がいる不条理に、怒りを感じます。

また今回のお話で、人の個性は性だけでなく様々な見えない要素によって構成されていることに気付かされました。現代は「男」「女」といったまとまりではもはや区別できない、「個人」の尊重が重要な時代なのだと思います。

今日のお話について、帰って母と話しました。母は「法をつくるにはあやふやなものもはっきり分けなくてはいけない」と言いました。それこそ、今私達が抱える問題の根源ではないでしょうか。十人十色のカラフルな個人がカラフルなままに生きられる仕組みを作ること。それが何よりも求められていることではないだろうか、私は考えます。

これまで個人的に様々な書籍や動画でLGBTQについて学んできました。そして今回、実際にお話を聞いて一層学びが深まったように感じます。貴重なお話をありがとうございました。

◆講演会に参加して、LGBTQの方と自分では、当事者と非当事者としてしか考えたことがなかったけれど、性自認は誰にでもあって、LGBTQの方だけが特別ではないことがわかりました。制度面では配偶者と認められないと税金や相続、親権なども認められないと知り、異性の夫婦と同性同士の夫婦でも間にある愛は変わらないのになあ…と思いました。そしてG7の中でも同性婚を認めていないのは日本だけだと知りびっくりしました。パートナーシップ制度で認められる権利が増えているけれども、まだ不十分なので増えてほしいです。

世間では、やはり偏見をなくしていきたいと思いました。同性愛者だから、トランスジェンダーだから、という気遣いの目も時には嫌な気持ちになるときがあると思ったので、そもそもの偏見をなくしたいです。こういう講演もする必要がなくなるような、ジェンダーに対する理解が深まる世の中にしたいです。自分ができることとしてインターネットなどでの署名活動など意識して情報を集めることから始めたいです。

◆今日初めて理解して当事者の方と会い、話を聞くという貴重な体験ができて本当によかったです。性の多様性については4月から調べたり考えたりしてきました。いつもどうしたら全ての人が性についての悩みをもたず過ごせるのかと考えていましたが、答えは出せず、難しいなと思っていました。今日の話で、LGBTQの方の本音や思っていることを知って、なんとかして悩みをなくしたいと強く感じました。僕も今までカミングアウトを受けたことがなく、身近にLGBTQの方はいるのか分かりません。でもきつーと思います。だからまずできることとして、性の区別をつける言葉を使わないようにしたいです。そして、LGBTQなどの性に関する活動に目を向け、協力していきたいです。今日は考えが深まりました。ありがとうございました。頑張っていきたいと思います！



◆今日の講演会で、今までの自分の言動を考えさせられました。一番心に残っているのは「彼氏、彼女がいるの？と聞くのではなく恋人というワードを使う人は安心できて、話しやすい」と仰っていたことです。思い返してみれば自分は今まで、彼氏・彼女・恋人という言葉の人によって使い分けていた気がします。その理由を考えてみた時に話し方や見た目ですぐ勝手に判断をしていることに気がつきました。「この人は男らしい仕草をするし、男らしい見た目だからこの人の恋愛対象は女の子に違いない」と決めつけていました。『異性のことを好きになる



のが普通』という考え方は正しくないと思っ  
ていながらも、自分が何の気なしに発言する言葉  
はその考えに反していました。もっと頭で考え  
て発言するべきでした。もし同性愛者の友達が  
いても、その事について意見をすることは勇気が  
いる事だと思うので、市川さんの話が聞けてな  
かったら一生偏見で生きていたと思います。気  
づけて良かったです。

市川さんが「同性愛者の方が苦勞しているの  
は分かったが、法律まで変える必要はないので  
は」と意見されたことがあると話していた時に  
とても複雑な気持ちになりました。その意見を  
述べられるのは、たまたま”普通”とされる性に

生まれ、たまたま”普通”の恋愛ができた人だけで、その”普通”に慢心しているような気がした  
からです。もし自分が同性愛者の立場だったら同じ事が言えるのでしょうか。その意見を  
発した人は無責任で、他者への思いやりが足りないようで自分の事ではないですが、腹が立  
ちました。

私の女友達にバイセクシャルがいます。その子が女の子とお付き合いしている時に「気持ち  
悪いから早く別れろ」と匿名でメッセージが来たと聞きました。LGBTQの関心が高ま  
り、理解も広まっている今、そんなことを言う人がいるのかと驚きました。どうして多様化  
が進む中で異性を好きになることが普通で、同性愛は正しくないという考えが存在している  
のかとても疑問です。ただ、親から子へと受け継がれてきた物事の見方というものは多少な  
りとも影響している気がします。だから正しい知識、理解を持つ為にもっと皆にLGBTQ  
への興味も持ってもらい、早い段階での知識付けが必要だと改めて感じました。

今日の講演会は自分の考えや言動を見つめ直す良い機会になりました。参加する事が出来  
て良かったです。ありがとうございました！

◇ 令和3年度 岐阜県道徳教育振興会議 研究指定校としての実践活動

令和3年度、関高校は、岐阜県道徳教育振興会議より研究指定を受けました（関ブリッジ  
ジャーナル第31号）。活動の具体的目標に、「多様な価値観や生き方を尊重し、共生をめざ  
す地域社会のリーダーの育成」や「社会課題の解決を自己の生き方と重ねて考え、思いやり  
と寛容の精神で他者と向き合えるリーダーの育  
成」を掲げ、FRH・SGH事業と連動させながら  
の活動を実践しています。LGBTQに関する取  
り組みもその一環として位置付けています。

関高が、関市とともにこの問題に取り組んで、次  
年度で7年目を迎えます。次年度はいよいよ関市  
でもパートナーシップ制度が導入されます。20  
22年6月23日（日）には、せきてらすで、パ  
ートナーシップ制度をテーマに、「第4回ダイバーシ  
ティSEKIシンポジウム」を開催する予定です。

